



[令和 6 年 10 月 9 日 定例会発表要旨]

乗り越えた天寿 第 3 弾

郷土史研究会 特別顧問 平木 重男

平木さんは 20 歳で満州に渡り、復員後は三井砂川炭鉱に入職。
労働組合活動などを経て、その後、炭鉱の斜陽を見通して日本除雪機
製作所に入社します。
ここでは会社倒産の危機に遭遇し、会社存続を救うべく奔走します。
今回は第 3 弾として現役退職後の昭和 54 年から 30 余年、町内会始め
手稲の町作りに貢献してきた平木さんの奮闘ぶりを「乗り越えた天寿」から
順を追って辿ってみたいと思います。



偲ばれる手稲連合協議会

昭和 54 年当時は西区だった連合協議会の役員会は公民館で行っており、昭和 60 年にコミュニティセンターが
出来てからは場所を移行される。当時の激しい論争が思い出されます。

● 公園に物置設置を要望

町内住民 が公園清掃に使用する竹ボウキ、草刈り鋏などの保管物置設置を要望する。

市側「規則に認められていないので、この場で言われても困る」と会議は紛糾結論出ず終わる。

帰りに平木さんは会長たちに「うちの町内は一年前から置いている」と言う。その後、他の町内会も置くよ
うなり市は設置を認め管理助成金を支給するようになった。

● 稲山町内会の生活道路排雪

平木さんは当時日本除雪機製作所に勤務しながら稲山連合町内会副会長と第 4 町内会会長を兼務して
いました。

第 4 町内会は連町で一番の密集地で冬季の排雪の苦情が多く、平木さんは社長に願い出てダンプ貸し出

しの許可をもらいます。対象世帯に戸500円の臨時徴収でロータリー1台とダンプ12台で第4町内会を単独除雪を実施する。連合町内会の会長が排雪の威力に非常に驚いて除雪費の半額を負担してくれました。そのため、他の町内会から第4町内会だけ負担金が出ることに苦情が出ました、平木さんは会社の社長にもなにも相談せずに「次年度から連合町内会全体の排雪が出来るよう努力する…」と言い切りました。

後に社長に事情を話し、出来ることなら町内生活道路にもダンプの貸し出しを札幌市に要請して欲しいと依頼します。

このことがきっかけになり札幌市は生活道路の除雪に「無料ダンプ貸し出し」がスタートしました。

札幌市が市民の声を吸い上げてくれた、平木さんの思いが札幌市を動かしたともいえるエピソードです。

● 私道の除雪の解決策

また、町内に私道が2区画あり、私道は札幌市除雪をしてもらえません

そのため町内会費から毎年1区画8万円を業者に支払わなければならない。地主に連町への寄付を要請するも折り合いが付かず3年目でようやく金銭解決により同意を得ました。利用者からの寄付金と連合町内会から合計350万円を捻出し地主に払い、市に寄付し市道手続きが完了したのです。

平成4年、市道整備完成祝賀会を行い苦難の5年間を振り返りました。

● 除雪担当者に婦人部より慰労

平成4年、平木さんが管理する珠算教室を使用して排雪担当者さんに各町内会交替で婦人部が豚汁、お握り等の炊き出しで労をねぎらいました。

● 手稲区ラジオ体操協議会発足（昭和54年から町内会長をしていた。）

平成2年、平木さんはラジオ体操指導者講習を受け認定証をもらいます。町内会行事の一環として健康作りを目指し、夏休み早朝ラジオ体操と町内一周2kmのマラソンを実施。以来45年間、現在も続いています。その後「手稲ラジオ体操会」を設立。「手稲区民 夏祭り」「手稲山 雪の祭典」にも参加し、各団体の要請に基づき出張指導もしていました。

● 道路改革…（平木さんは昭和63年連合町内会の道路部 役員だった。）

その間、私道から市道へ道路改革に奔走しました。稲山町内会は先ほど述べた通りですが

● 下手稲線について

平成3年樽川通りと曙通りの間に立ち退き要請に応じない世帯が3軒ありました。工事が遅れるので両側から挟み撃ち工事を始め、2軒は了承してもらえたが最後の1軒のMさんがどうしても応じてもらえません。

市と区の担当者から平木さんに是非、Mさんの交渉仲介役をお願いしたいとの依頼が来ました。

Mさんというのがたまたま平木さんにご縁があったのですよね。

平木さんトーク エピソード:三笠の北村要吉との関係など

平木さんが日本除雪機時代の労働組合の委員長だった時にMさんは書記長だった。平木さんは60歳で退職したが長年、稲山町内会長を継続していたため、結果、Mさんは子供の通学に便利な代替地を希望しているのに市からは何の返答がないとのこと。早速、移転料と近くの土地の斡旋することで無事解決。平成7年下手稲線(曙通りから曲長通り)が全面開通。

● 道路改革その3 曙工業団地

曙工業団地の曙5条5丁目 土木事業所北側横から通り抜ける歩道を車も通行できるようにしてほしいとの利用者からの要請がありました。

平木さんトーク 沖田さんから平木さんに振る → ここは自然発生的に歩道になっていたんですか？
北海道急行運輸(株)と札幌市手稲区土木事業所の土地を遠慮しながら通り抜けていた。

最初は不可能という回答が来たが何度も懇願し平成7年やっと車も通行可になり 曙5条5丁目2号線として市道になった。

それまで遠慮して構内を通行していた住民は要望に応えてくれたことに感謝している。

● 前田川改修に挑む

平木さんは昭和60年から平成10年まで鉄北連絡協議会理事を勤め前田川改革を訴えてきました。前田川は田圃の排水溝だったのですが、周辺の宅地化で下水道が完備されたのに伴い

水が流れなくなりゴミが氾濫し異臭が漂うようになったのです。平成6年より前田川を暗渠にするよう要望していました。平成10年、手稲区主催の「手稲 町づくりビジョン説明会」で市や区に職員と暗渠問題の論議を交わしました。

区民センターで「前田川ってご存じですか？」というテーマで平木さんがパネリストで発表。前田川は旧曙排水溝が手稲北口のプロムナード整備(プロムナード…仏語で散歩、散策という意味)のときにいつの間にか変わった名前。

平木さんの考案:…前田川を暗渠にしてプロムナードを土功川まで延長しイベント広場をつくり、道工大から前田森林公園までを繋ぎ手稲の中核となす「グリーンベルト構想」を提案。その後「鉄北解決団」を結成し道工大倉原ゼミの学生の手伝いを交えて前田川を歩くワークショップを実施。平成10年に平木さん退任後未だ改善されず強力なリーダーを切望される。

この前田川の状況は土功川にもつながってくるのですが…

● 土功川今昔…この川はいつになったら元に戻るのか

平成8年、平木さんは札幌市より河川モニターを委嘱され毎月巡回し環境状況と改善を報告していました。昔の土功川は手稲鉾山の選鉾排水を現在の運転試験場に沈殿除水した後の水が流れてきて曙旧排

水溝の流水と合流していました。

水質はとても綺麗で当時は木々が鬱蒼として鳥の巣があったり魚が多く遡上していました。

鯉を持ち上げているエピソードについて平木さんトーク

「平木さんたいへんだ、川に鯉がいるぞ～」と平木さん方に駆けつけた●●さんと一緒に、網でこんな大きな鯉を救い上げた

昭和57年の大雨で水死事故が起きたのをきっかけに土功川改修工事が始まり、工事は平成3年終了したが、石垣に覆われ自然が全くなくなってしまいました。手稲鉾山の選鉾排水が濁川に排水して以来、水量が少なくなり泥水状態。浄化槽設置を試みたのですが改善されず失敗。いまだに住民の苦情が多く進展が求められるところです。

● 稲山第4町内会十周年記念

昭和63年、四町内公園にて十周年記念式典を挙行。多くの来賓者を招き祝辞を戴き、役員の永年表彰、出店、演芸など盛大に行いました。商店の協賛金もあり記念誌「歩み」とタオルを配布出来ました。

● 稲山第4町内会二十周年

平成9年、四町内ふれあい公園に舞台を組み、来賓者多数の出席と祝辞を戴き役員の表彰、出店、工業大学演奏、山口風雪太鼓、連合町内会舞踊部の舞踊応援もあり一層盛り上がり、カラオケ、高齢者のお祝いなど盛大に行いました。



● 稲山峰和会発足 設立総会 踊り

早川ツタエさんは平木さんの義理姉で民謡の奥伝免許を持っており、老人施設への慰問もしていました。生前ツタエさんは老人クラブ設置を希望していました。没後、平成元年、平木さん含む各会長の協力のうちに会員86名来賓4名を招待し「稲山峰和会」が発足しました。

● 手稲駅自由通路ワークショップ

平成8年、手稲駅南北自由道路と広場を考えるワークショップに参加しました。21メンバーで道工大、倉原宗孝教授も参加し、毎月1回計7回の会合、ほか4回は意見を求めたものを手稲区民ホールで130名の一般参加者を交えて開催しました。

これとは別に一般代表者まちづくりビジョンふるさと開拓会議



夢フォーラムを4ヶ月ごと開催、12年まで続け幾多の会合、
検討を重ねました。

平成14年総工費72億円で手稲駅「あいくる」が完成し盛大な式典。式典後21メンバーは様々な
思い出を語り名残惜しく再会を期して別れたのです。

● 鉄北福祉のまち発足

平成7年、札幌市の要請で手稲区に福祉のまち推進センター
を設置することになり鉄北は9年に設置の番になりました。

役員会で論議を重ねるも時期尚早と及び腰。

平木さんは7区のうち既に3区が実施していること、高齢化
が迫ってきている鉄北地区も設置が避けて通れないこと、
初心に戻って勉強をしていこうという提案をし了承されます。

以後何度も協議を重ね、平成9年鉄北連絡所の一室に

事務所を設け、鉄北地区福祉のまち推進センターがオープンしました。

平成13年、樽川通り歩道と曙通り生活通路のバリアフリー箇所を調べ手稲区長へ改善要望書を提出。北
海道新聞に「人に優しい街づくりを」と題して掲載されました。



● 前田森林公園凸凹クラブ発足

平成13年、前田森林公園展望ラウンジ2F に於いて森林公園サポーター初回講座「あなたも公園のプロ
になろう」を実施、14年管理事務所内で企画実行委員会を行い凸凹クラブと名称。

春秋2回のカナール掃除継続。 トンカチ広場 木々の観察 餅つき 「夢しんぶん」

● まちおこし運動の発端

平成14年・・・これからの手稲まちづくりを考える会が手稲総務企画課によって企画されました。区民セン
ターに講師を招いて連町代表や一般希望者の参加。手稲区民センター大ホールにて「手稲まち作りコンテ
スト」開催。道工大内にバスストップカフェ計画案

● ていね「夢しんぶん」の発行

平成14年・・・工業大学碓山生徒老若男女のメンバー、故一宮さんと共に手稲夢新聞車を企画。車・・・とし
たのは「誰でも乗れる、入れる」という意味。創刊号に昔の排水溝を暗渠にして、手稲の中核イベント道路
にする永年の運動記録と手稲の幽霊話の二部作掲載。

懐かしい当時の新聞内容・・・

●『ゴールデンカムイ』の白石のモデルになった「昭和の脱獄王」と呼ばれた白鳥由栄(しらとり・よしえ)が札幌刑務所から4度目の脱獄後、手稲界限に出没した痕跡があったという記事

本町、富丘、前田などで食べ物衣類などが無くなり、中央小学校では地図が無くなった。った。

●星置神社の年末、参道を灯す 350 個ものキャンドル。星置川からお水取りをして作る同好会、国道 5 号線沿いにあるので通りかかったマイカーが珍しい光景に 2000 人ものお参り客が来た話、

平木さんは「2006手稲まちづくり交流祭」に82歳で餅つきの指導をすることになりました。

●ふれあい農園

平成18年・・・ 前田森林公園拡張地に「ふれあい農園」を立ち上げる。参加団体が野菜づくりをして地域住民との交流を図る。工業大学碓山ゼミ、前田森林公園凸凹クラブ、環境くるくるネットワーク、手稲あすなろ幼稚園の4団体が各々の考え方で野菜を作り秋に収穫祭をした。今後の課題を総務企画課に報告する。22年は86名もの参加。平木さんはドラム缶薪ストーブと100人用大鍋を設置し焚火の世話、焼き芋、豚汁などで盛り上がる。

内田徳次郎の墓

平成18年、平木家の墓を移転の際、警兄が村人に呼びかけ寄付を集め修復してきた意志を受け継ぎ、平木さんは内田徳次郎の墓を私費で移設しました。

平木さんトーク

乗り越えた天寿・・・盲目の囚人徳次郎より

空知集知監から出獄したあと盲目ながら墓守となった。地藏堂の前に管理舎を建ててもらい村人の墓をひとつひとつ掃除していた。昭和 3 年管理舎が火事になり徳さんは焼死体で発見される。82 歳だった。預金通帳に 42 円の残金あり、生前の希望通り墓を建て、残りを近所の子供たちの学用品を買い与えた。父の話では徳さんは温厚で学者肌であり、おそらく幕末の政治犯だったと思われる。

私の趣味 古刀

平木家の古刀・・・刀銘は「美濃守政常」 正月になると床の間で観たのが忘れられず真剣への思いが募ります。刀剣発表会があるたびに通い詰める夫をみて妻が後押しをしてくれてやっと古刀、備前国助縄を購入します。昭和60年、札幌市美術刀剣保存協会支部に入会。

六か伝による鑑定法があり地鉄、反り、棟、切り先、刃文などの形状を鑑察して時代、出所、刀工名を鑑定するのです。

平木さん自身、昭和24から31年まで上砂川で鍛冶を習った経験があります。そのとき剣劇芝居用に刃を付けず鍛刀した経験があります。高炭素素材と低炭素素材の組み合わせで折れず曲がらない構造になるのです。

平木さんの先祖は平家の末裔で鳥取県に落ち延びました。父の代から伝わる家宝の日本刀があり、その影響で刀は身近にあり興味がありました。 その他に色々な趣味があります。

その他の趣味 地図を描く 絵を描く 書を書く

平木さんの人生を辿ってみると常に、逃げることをせず物事に果敢に取り組んでいく姿勢が覗えます。平木さんは好奇心が旺盛で人への垣根がありません。その姿に自然に老いも若きも集まってくるのだと思います。平木さんは現在 98 歳です。今日もお元気で郷土史会に出席されております。

まさに乗り越える天寿 98 歳我が人生悔いなし! です。

平木 重男氏のプロフィール

大正15年	6月4日	空知郡三笠山村で勝造・りつの五男として生れる。
昭和16年		尋常高等科卒業後、国鉄三笠幌内太駅就職。
昭和19年		旧満州国東安省鶏寧県哈達河開拓団に入植。
		牡丹江興隆部隊に入隊。独立守備隊編成。軍需地警備。
昭和20年		脱走後収容され八路軍やソ連軍で使役。
昭和21年		脱出失敗を繰り返し奉天収容所から上砂川の姉の所へ10月帰国。
		11月三井上砂川炭鉱東山坑機修員として就職。昭和26年結婚。
昭和30年		鉱業所内に生活協同組合創立に努力。
昭和40年		三井鉱山退職し手稲日本除雪機製作所に就職。
昭和45年		会社倒産、労働組合結成して会社再建に努力。
昭和54年		稲山連合町内会副会長。第四町内会長。
平成12年		手稲鉄北福祉のまち推進センター事務局長など自治活動に貢献。

趣味は骨董の刀剣、画作、書道、読書、クラシック音楽など。
戦争体験掲載書 「敗戦引揚の労苦」、「平和の礎」、「戦争を掘る」、「戦禍の記憶」など。



10月13日 発表時は沖田会長が説明役に

手稲山の日フェスティバル 2024 に参加して

去る令和 6 年 10 月 19 日(土)あいにくの雨の中、テイネオリンピックスキーセンター特設ステージで大勢の参加者のもとフェスティバルが行われた。

このイベントのメインスポンサーは、王子の森(国内に約 650 箇所、19 万ヘクタール)を所有する王子 HD であるが、脱プラスチック社会への取り組みを北海道科学大学や手稲郷土史研究会を含めて、「ネイチャーポジティブ」(2030 年までに札幌の街に近いいねの森の自然を取り戻そうという取り組み)をキーワードに楽しく学ぶことを目的にイベントが開催された。

手稲郷土史研究会は、北海道科学大学未来デザイン学部メディアデザイン学科の道尾淳子先生との協議で書籍や会報等の展示コーナーが設けられ、午後の第 4 部 街角キャンパス(屋内)には沖田会長と林事務局長が登壇し、クイズや質問に答えていた。

最後にアトラクションとしてダンスや太鼓演奏などがあって盛会のうちに 16 時頃閉会した。
(立花邦雄記)



質疑応答

壇上 右端 林事務局長

右端 2 人目 沖田会長



参加会員



展示コーナー



案内図

令和 6 年度手 稲郷土史研究会バス研修旅行

2024 年 10 月 22 日、毎年恒例のバス研修旅行が行われました。昨今のバス運転手の不足などによりバスの予約などが見通しのない中での計画でしたが無事バスも予約でき、今年度も執り行うことができました。

今回のテーマは北海道、北東北の縄文遺跡ということで、恵庭市の恵庭郷土資料館、千歳市の千歳市埋蔵文化財センター、道の駅サーモンパークの 3 か所に訪れました。

恵庭市郷土資料館ではカリンバ遺跡から出土した合葬墓をメインに、新たに史跡登録された西島松方面の遺跡などを展示。他にも恵庭市内での昔の様子が分かる各資料、生活道具、森林鉄道など展示内容は多岐にわたっていた。ここでは展示資料や各資料がすべて電子化されており、見習うべき事項も多かったのではないだろうか。

千歳市埋蔵文化財センターでは千歳市内で発掘された埋蔵文化財を収蔵、展示している。千歳市の昔の土地の様子としてオサットー、マオイトーの時代の変遷による沼地の消失や、北海道の成り立つ変遷などに始まり、石器時代、縄文時代、擦文時代、アイヌ時代の各石器、土器、漆器の展示。そのほかにも周堤墓や墓に関する墓標、貝塚などが展示されていた。ここではレクチャールームにて昼食の時間もありました。各々研修旅行の感想やこれから見てみたくなったもの、行ってみたくなった場所などを話したと思います。

研修旅行最後の訪問場所は道の駅サーモンパーク千歳でした。ここでは水族館も併設されていたので、自由参加にて水族館の見学も執り行われました。ちょうど時期的にサケの遡上も見られました。道の駅では地場産の野菜や特産品、お土産物などを各々購入。帰路へと就きました。北東北、北海道の縄文遺跡群が世界遺産に登録されたことにより、縄文時代の埋蔵文化財や遺跡の注目度が非常に高まっており、この分野では今後さらに資料、展示施設が充実していくものと感じました。



千歳市埋蔵文化センター前で記念写真

恵庭郷土資料館にて古代の墓の説明を



埋設装身具



千歳市埋蔵文化センターの土偶

(愛称 ビビちゃん 実物は東京出張)

前回会報
訂正ヶ所

第 198 号誤字訂正2ページの下の写真上4行目「尾崎幸雄を尾崎行雄」に訂正
最下段の黒板の解説「伊勢藩を伊達藩に訂正

次回定例会 12 月 11 日 18 時 15 分 区民センター2 階第 4 会議室

発表内容「島 義勇について」手稲郷土史研究会 梶本 孝

手稲郷土史研究会 会報「郷土史ていね」第 199 号 令和 6 年 11 月 13 日発行

発行責任者：沖田紘昭（手稲郷土史研究会 会長） 編集：立花邦雄・川上義昭

♣006-0818 札幌市手稲区前田 8 条 11 丁目 4-5 林俊一方 手稲郷土史研究会 *TEL 090-3381-4994 *FAX 011-682-9874♣メールアドレス teinenorekishi@gmail.com 担当 菊池 博行